

市民参画に係わる市民座談会（第22回）《要旨》

平成25年4月18日（木）午後7時から午後9時まで

コミュニティーセンター 第1集会室

参加者 15人

【市民】岩垣、尾池、大野、小嶋、坂本、佐野、白石、竹内、宮本、山本

【職員】政策企画室 佐藤、又賀、芦原、山崎 地域づくり支援課 木内

座談会における内容は以下のとおり

1 自己紹介

2 平成25年度市民座談会の活動について

- ・第5次総合振興計画基本構想、自治基本条例を策定するにあたり、市民座談会はどう係わっていくか。市民参画の仕掛けを考えられないか。
- ・平成24年度の第1グループの報告書が、私たちのまちづくりの青写真。これを今後、具体的にどう実現していくのかを考えたい。
- ・第5次総合振興計画がスタートするまでの大まかなスケジュールは理解したが、市民はどこに係われるのか。
- ・今年度の秋には部会を立ち上げたいが、ワーキンググループや懇談会という形で市民の意見を集約し部会に投げかけてもらう形もある。
- ・20年という長期計画である都市計画マスタープランについても、今年度見直しの予定である。
- ・環境基本計画が策定された時には、市民の意見を出す場がなく、意見が反映されているとは感じられなかった。10年先の抽象的な話では市民は分からない。市民は身近なところに視点がある。具体的な議論でないと、人は集まらない。
- ・ある程度勉強をしている固定グループと、広く聴く市民の意見は同じではない。
- ・まちづくりとして大きな都市計画マスタープラン、これを受けて総合振興計画ができる。総合振興計画が策定される前に、当然、自治基本条例が策定されているべき。この3つの大きな計画のどこに重点を置くべきかを考えたい。
- ・自治基本条例は、8割はどこも同じだという。どのように朝霞のオリジナリティを出すか。
- ・自分たちのまちなのだから、試行錯誤をして、朝霞らしい市民参加のスタイルを作りたい。これまで私たちがしてきたことを、水平展開したい。
- ・これまでと同じ呼びかけの方法では、人材集めは難しいのでは。
- ・SNSで問いかける方法はどうか。条例のためのアプリを立ち上げて、若い世代を取り込む方法もある。
- ・東京都のように、ツイッターやフェイスブックを活用してみたい。
- ・アメリカでは消火栓の里親制度がある。協働の意識づくりの上では有効ではないか。

- これまでとは違う市民参画の形があるということ。ただ、これまでどおり、ワークショップを多く開いていきたい。
- 市には、協働できる人づくりをしてほしい。協働は、まちづくりの喜びを味わえる。ふるさとと感ずることができる。ぜひ、協力者を育てて欲しい。
- 人材作りは大切なこと。どのように人材を集めるのか、仕掛けを考えたいのだが。
- 楽しいこと、新しいことをやっていけば良い。
- 具体的な話をしないと集まってこない。市民団体など、声をかける対象はあるのだが、内容がないと集まらないだろう。ワーキンググループのテーマ、検討課題を具体的にしたい。
- そもそも、総合振興計画とは何か。観光立県と言われる長崎は、官民一体となった大きなテーマがあった。朝霞市はどんな方向に進んでいきたいのか。
- 市民参画には、ある程度のしたたかさが必要だと思う。アピールする方法は具体的にいろいろとあるのだが、どこにどのように言えば実現できるのか。
- 第5次総合振興計画という大枠ではなく、具体的な小さなことを始めるフットワークの軽さを見せて欲しい。
- 担当課と直接話をするのであれば、実現の一步となるのでは。

3 次回の座談会について

- 平成25年5月9日（木）午後7時から
- 場所はコミュニティセンター第1集会室